

第5回 城北病院地域連携学習交流会を開催しました

本年3月に予定していた城北病院地域連携学習交流会を、9月10日に開催しました。

コロナ禍の中、参加人数の制限や感染防止策を講じながらの開催のため、参加者は少なめでしたが、「経済的困難を抱えた方の支援を考える」というテーマで、当院の無料低額診療の活用の仕方などを話題提供させていただきました。

参加された方からは、無料低額診療事業について知っていたものの、具体的にどのように活用すればよいか学ぶ機会になったなど活発な意見交換を行うことができました。また、受診までの交通手段に困ることがあるなどの意見も寄せられ、制度にアクセスするための地域の資源や連携の在り方の重要性について考える機会にもなりました。



私たちが
めざすもの

医療福祉宣言
城北病院 城北診療所

私たちは、ヘルスプロモーションホスピタルとして地域の皆様、他の病院や施設と共同してネットワークをつくり、無差別・平等の地域包括ケアを実践し、平和で安心して住み続けられるまちづくりに努めます。

発行 城北病院 医療福祉連携相談室

〒920-8616 金沢市京町 20-3
TEL 076-251-6111 FAX 076-208-5231
<http://jouhoku-hosp.com>
E-mail renkeisitu@jouhoku.jp



医療福祉連携相談室だより

Jo-HOKU No. 58

2020.12.10 autumn



城北病院 副院長
医療福祉サポートセンター長
齊藤 典才

新病院が完成しました

今年は新型コロナウイルス感染症という世界的なパンデミックが起こり、各医療機関や介護系施設においては、患者さんや利用者さん或は職員に感染を起こしてはならないという使命感の中で、日々の感染対策に追われる大変な状況になりました。決定的な治療薬の開発が進まない中で、この新型コロナウイルスが人々にとってそれほど脅威とはならず、自由な外出や会食ができる元どおりの日常生活に戻る日がくることを期待しながら毎日をごしています。さて、城北病院は施設の老朽化のため2016年4月から建て替え工事を始め、今年6月ようやく完成し、新型コロナ対策に追われる中でも新しい機能をもった地域の病院として動き出しました。従来は内科系と外科系の急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、医療型療養病棟を有するケアミックス型の病院でしたが、新たにハイケアユニット(10床)、緩和ケア病棟(20床)を作りました。当院はもともと積極的に救急搬送を受け入れる一方、地域の高齢患者さんを多く診る中でがん患者さんの終末期医療を生活面までも含めてより良い最期を迎えていただくことに注力してきました。今回ハイケアユニットと緩和ケア病棟ができたことで、当該病棟で働く職員それぞれが専門性を持ち学術的にも高めていくことで、入院された患者さんにより良い医療を提供できるのではないかと期待しています。こうした城北病院の姿勢を地域の先生方や介護系施設で働く皆さんに知っていただき、今まで以上に利用していただきたいと思っています。ご支援をよろしくお願いします。

特集 1

下肢静脈瘤血管内焼灼術について

城北病院 血管外科医 遠藤将光



はじめに

当科は 2019 年 4 月に開設し 8 月から下肢静脈瘤に対し腰椎麻酔下のストリッピング（抜去切除）術を開始、以後皆様から多大なご協力を賜り順調に実績を重ねることができました。お陰さまで1年足らずで「下肢静脈瘤血管内治療」の申請にこぎ着き、この度その実績が評価され正式に施設認定を取得しました。これも偏に皆様のご協力の賜物と存じております、この場をお借りしてお礼申し上げます。

本法は 2000 年頃に米国で始まり、日本では 2011 年に認可された比較的新しい方法です。以前のストリッピング術では足のつけ根と膝の 2ヶ所を切開し傷んだ静脈を取り除きますが、本法では膝の内側に細い針を刺すだけで、静

脈の中にファイバーを通しレーザーやラジオ波の熱で静脈を塞ぎます。太ももの静脈を抜かないので出血や術後疼痛が少なく、通常のカテーテル手術と同様「低侵襲」と呼ばれる体に優しい治療です。

(1) 手術日程

月又は水曜日入院、当日手術。朝食は絶食ですが、水やお茶は来院まで飲めます。通常の薬はのんで下さい。手術中は静脈麻酔を併用するので眠くなり、太ももから膝下に 5-7ヶ所局所麻酔します。膝下の小さい瘤は経過を見て、大きい瘤は 3-5 mm 程切開し切除します。術後は弾力包帯を巻き一泊、翌朝エコーで確認し問題なければ弾性ストッキングを履いて退院です。

(2) 術後の外来通院

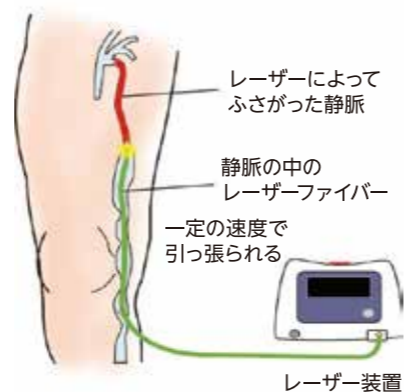
ご自宅でシャワー OK。術前同様にどンドン歩いて下さい。1週間後に再診です。

(3) 問題点及び合併症

退院後歩くと太ももに違和感やつっぱり感を生じることがあります。また、瘤に沿って皮膚が赤く腫れたり硬くなって痛んだりしますが、静脈瘤がきちんと治療されている証拠ですので気にせずどンドン動いて下さい。

その他、ごく稀ですが深部静脈血栓症、肺梗塞などの合併症も報告されているため、エコーで慎重に検査し必要に応じて内服、点滴、入院等の処置を行います。

このように静脈瘤はカテーテルで簡単に治ると思われがちですが、この方法はあくまでも軽症の瘤が対象です。また一部の不適切治療が問題になっていますが、当院では各指針を厳守して方針を決めています。



注) 当院ではラジオ波を採用しています

特集 2

カテチームによる当院の治療

城北病院 循環器内科医 小堀健一



2009 年に城北病院でカテーテル治療を立ち上げて 12 年目に入りました。

立ち上げ前には、近隣に紹介できる病院が複数あるのに城北病院で PCI をする必要があるのかと議論になりました。当院には糖尿病患者、透析患者など動脈硬化性疾患を抱えた患者が多く、また社会的な問題を抱え、城北でないと治療を行いきい患者もいました。城北だから求められる PCI もあるとの判断で PCI のたちあげとなりました。

PCI 立ち上げにあたり症例数の多い病院で修行を積みました。当院に戻ってみると、カテーテル治療を行う医師は自分一人だけで、カテ室スタッフも PCI の経験がないメンバーばかりでした。2009 年の立ち上げ時には、金沢循環器病院 CEO の名村先生をお招きし、カテ室で直接指導をしていただきました。名村先生の引き出しの多さ、引き出しを開けるタイミングには感服するばかりでした。

カテーテル治療が軌道に乗り、名村先生の指導も無くなった頃、急変や合併症を経験し、自分一人でベイルアウトすることの大変さを実感しました。といってもカテーテル治療できる医師やカテ経験のあるスタッフが急に増えるわけではないので、今いるスタッフを育てるしかありませんでした。



カテをする医師が一人しかいなかった分、コメディカルスタッフが育ってくれました。ME は、カテのセカンドから IVUS の測定までこなしてくれ、非常にたのしく成長してくれました。放射線技師は、カテ前後で穿刺部のエコーを行い、穿刺部合併症の予防や早期発見に役立っています。看護師は、患者への声かけが増え、患者の不安も医師のストレスも減りました。薬剤師は、抗血栓薬の漏れがないかチェックを行い、腎機能による薬剤調整の提案も行ってくれます。現在、7 年目の医師が加わり、二人でカテをするようになりました。事前に症例検討を行い、最悪のシナリオまで考え、何があっても対応できるよう準備します。カテ開始前のタイムアウト、カテ終了時のファイナルチェックも導入しました。カテチームのメンバーが育ってくれた事で、急変や合併症も著減しました。

当院では現在、狭心症に対する PCI、末梢動脈疾患に対する EVT、シャント疾患に対する VAIVT、がんによる SVC 症候群やバッドキアリ症候群に対するカテーテル治療などを行っています。放射線科医とジョイントし、喀血や骨盤出血などに対するカテーテルでの止血術も行います。血管外科医と協力し、シャント作成、VAIVT、シャント再建まで当院で完結できるようになりました。

待機的なカテーテル検査や治療は、毎週火曜、第 2・4 金曜に行っています。緊急カテーテル検査や治療は、日中は随時対応し、夜間や休日は症例を限定して行い、ACS などは 24 時間治療可能な病院へ紹介しています。

スタッフは少ないですが、カテを必要とする地域の方々のために頑張っていきますので、今後とも宜しくお願いいたします。